

宇都宮商業會議所月報 第百七號

稟

告

一商工業の進歩發達を促すべき事實又は法律命令
其他商業の發達を沮害する事情あらは速に其状
況并に之に對する御意見等御一報あらんことを
望む

一商工業に關し獎勵すべき習慣若くは矯正すべき
弊習等御認めの場合は細大とあく御報知あらん
ことを望む

一地區内商工業組合の組織に關しては當所は出來
得る限り斡旋盡力すへし若し之れか組織の必要
を認められたる場合は申出られだし

一地區内商工業組合にして總會又は役員會々場に
充つる爲め會議室の使用を望まるに向に對して
は無料にて貸與し且つ當所の事務に支障を來さ
ざる限り其事務をも補助すへし

一地區内商工業者各位にして商工業に關する事項
に付諸官廳其他に對し本會議所の照會又は紹介
を得んことを望まる、場合は遠慮なく申出られ
たし

一本會議所は商工業者各位の時々來所高見を演述
調査研究の資料を供給せらるゝを却望す

一本會議所には官報、通商彙纂、商標公報、特許
公報、實用新案公報、山林公報、各地商業會議
所報告書其他商工業に關する各種統計及諸般の
有益ある圖書備付あり商工業者各位の隨時來所
閲覽あらんことを望む

宇都宮商業會議所

賜を榮光の覽天眞寫影館
度再もなく畏は
一北東はるせ全完の械器
目丁壹町旭市宮都宇

館 光 眞 写 電 話 番 二 二 三 三 吾 源 縣 山

●諸貸附、割引、爲替、荷爲替、代金取立
●総て精々御便利ニ取扱可申候

株式会社 宇都宮銀行

材木町支店 電話四〇〇番
足尾支店 電話一二〇番
足尾出張所 電話八〇〇番



資本金百萬圓
株式会社 下野銀行
東京支店 東京市日本橋区横山町二丁目
下野國宇都宮市大工町
日光支店 下野國日光町
新石町支店 宇都宮市新石町
電話三四〇番



| 行 | 發 | 同 | 一 | 月 | 每 |
|---|--------|---|---|----------|--------------|
| 約 | 六ヶ月以上特 | | | 定價登録部金五錢 | |
| ハ | 一行金八錢 | | | 郵稅登録部金五厘 | 發行人兼荒川義興 |
| | | | | 廣告料廿二字詰 | 刷人秋山錦次郎 |
| | | | | 一行金十錢◎特 | 發行所宇都宮市旭町一丁目 |
| | | | | 別廣告ハ三割增 | 宇都宮商業會議所 |
| | | | | 約 | 二五五五 |
| | | | | 六 | 印 刷 所 |
| | | | | 八 | 三共社 |
| | | | | 九 | 印 刷 所 |
| | | | | 一〇 | 印 刷 所 |

廣馬場整理は急務

號 七 百 第 報月所議會業商宮都字 日十月五年五十四治明 「二」

明神前の廣馬場は宇都宮市目抜の場所である市民も集れば附近村落の人も来る四季晝夜何時でも賑やかである宇都宮位な小市街地にあのやうな日々の娛樂場所とせらるゝ廣馬場の体裁は如何にも醜穢極まるではないか。

鳥居内兩側家屋の乱雜にして汚穢なる、交番所裏共同便所の臭氣フンブンたる、損れた屋臺店、きたない天張の竹の骨を見はせる、あやしげな破れ小屋の拾數軒而かも蕪雜に處々に置かれたる様は日々目撃しつゝある吾々にすら如何にも痛く不快の念を起させるから之を外來人が見たならば如何に感ずるであらうか吾輩は彼の公園設置の問題よりも從來公園と呼はれ居る此の廣馬場の整理が市の体面上一日も早く着手を要する最先急務の問題であると信ずる然らば如何に之を整理せんとするか私案はかうである。

鳥居内から鳥居前通り兩側の宅地を市に於て買收し鳥居内の兩側には彼の淺草のなかみせと言つた様に一定の家屋を建築し鳥居前通りは幅を今より二三間廣げ交番所は今の位置より片寄せ共同便所は手の字横丁へ通する道の入口あたりへ移して地下に設け現在の小屋公園地管理事務所共殘らず取り拂ひ兩側に一定の家屋を建築すること鳥居内の如くし又道の中央には横切ることの出來得るやう敷區に仕切つて簡単な奥行のない小屋を設け西向と東向脊合せに店を張れるやうにし其他は戸板店屋臺店等其日其日に取拂ふものでなければ店を張らせないやうにする。

以上が吾輩の理想的の整理案であるが此の通り實現せられない迄も一時的でも應急整理をなすは一

題 日も忽せになるまい市當局者の一考を煩はしたい
石炭の現在及將來

石炭の現在及将来

日本は世界に於て第八位の石炭產出額をして居る是を歐米の一等國に比較すれば東洋の石炭國も顏色なき有様である先づ世界第一の石炭產出國が北米合衆國で四億噸英國之に次で二億六七千噸獨逸が二億二千萬噸奧太利四千萬噸佛三千九百萬噸露二千三百万噸白耳義二千二百万噸次が日本で千五百万噸明治四十二年の調査である。

當つて居る今日迄に石炭產出額は各十年に二倍乃至三倍強の増加をなせるを以て明治五十年に於て四十年產出額の二倍の產出額を見るとは二千百八有餘万噸即ち三十万噸内外の產出額を見る次第である併し之を北米の四億噸英獨の二億有餘噸年々日本の石炭は約三百万噸(實溶十六七百万圓位)を海外よ輸出され得る次に日本の石炭包藏の分量は現在の產出額を以てせば尙六七十年間に大丈夫と思はれる

到り所要のものを求めしむるものと謂ふ。歐洲諸國に於ける日用品市場は必ずしも茲にいう公開市場に當らず日用品市場にては卸賣を目的とするものと小賣を目的とするものと二種あるが故に故にこゝにいう公開市場と現今之魚市場の如き中央市場と氣脈を通し相扶けて以て都市の食料品供給の機關となすに至らば或は日用品市場に近きものたるを得ん乎。

歐洲諸國に於ける日用品市場は小賣商人の暴横等に對抗せんが爲めに起りたるものにあらず寧ろ衛生並に警察等の理由によりて起りたるものなり。以上陳ぶるが如く公開市場につきていへば市中四通八達の地を選て市場を設け之を公開して夥多の生産者又は卸賣商人に對し場内區劃を貸與し其貨物を陳列して販賣するを許すのみならず其市場に於ける相場を定めて之を公にして一般の参考に充つるなり。

市場に於て生じたる相場を公にするることは消費者にとりては甚た必要のことにて之によりて消費者は市場の景況を知ることを得るが故にたゞへ公開市場を利用せざるものも亦市中にて食料品を求むるに小賣相場の標準を得ること難からざるなり。

| | | | |
|---|--------------|-----|-----------|
| 福岡縣 | 一〇、三二七、九七八 | 北海道 | 一、四八五、二〇九 |
| 福島縣 | 一、二五六、四八五 | 長崎縣 | 九四二、七一五 |
| 茨城縣 | 六五〇、四九 | 佐賀縣 | 五一、三八〇 |
| 計 | 二五六、六三五 | 山口縣 | 一二四、七五四 |
| | 一五、五三五、二八五 | 其 他 | |
| 千九百有餘万噸の產出に對し其三分の二は福岡 縣の產出であつて是に長崎佐賀兩縣の產出額を合 すれば千二百有餘萬噸となり日本石炭の八割は九 州北部に產出し殘餘の一割が北海道他の一割が常 盤炭である | | | |
| 更に日本の石炭の將來はどうで有らうか。 | | | |
| 年 度 | 出 炭 額 | | |
| 明治一〇〇年 | 一、四九六、一〇六 | | |
| 二〇〇年 | 一、七四六、二九六 | | |
| 三〇〇年 | 五、一八八、一五七 | | |
| 全 全 | 一、三三、八〇三、九六九 | | |
| 四〇〇年 | 一、三四、八〇三、九六九 | | |
| 四一〇年 | 一、四五、八〇三、九六三 | | |
| 四二〇年 | 一、四五、八〇三、九六三 | | |
| 四三年 | 一、五五、五〇三、八一三 | | |
| 四年推定 | 一、五五、五〇三、二八五 | | |
| 一七、五〇〇、〇〇〇 | | | |
| 全 全 | 一、〇三六、四九〇 | | |
| 四二〇年 | 三、〇七七、〇一〇 | | |
| 四三年 | 一、八、九九三、八四三 | | |
| 四年推定 | 一、八、九九三、八四三 | | |
| 一七、五〇三、二八五 | 六三、六二三、七七八 | | |
| | 五五、三〇五、六一五 | | |
| | 四五、八〇三、九六三 | | |
| | 五五、三〇五、六一五 | | |
| 明治十年に五十萬噸の石炭は二十年には三倍餘 の増加を及して百七十萬噸となり三十年には二十 年度の三倍五百二十萬噸四十年には三十年の約二 倍千四百万噸となつて居る四十四年度の推定額は 千七百五十萬噸であるから是を三十四年前の明治 十年の石炭產出額に比較すれば三十五倍の増加に よつて產出の狀況を表出すれば明治四十三年に於 | | | |

年三の殿初參入御

明治五十四年五月十日 一

自十月五年五十四治明

報月所議會業商宮都字

七百第

得金額の三十二年以降特に著しく減少を告げた
るは聊か奇なるに似たり然れども是れ所得稅法
改正の結果所得納稅人員の計算上從來戸主の所
得に合算したる全居家族の員數を加へざりしを
其以後加ふることとなりたるご政府が收入增加
の必要上調査を嚴密にし從來に洩れ居りたる比
較的小所得者をも納稅義務者に加入せしめたる
等の事情に基く者にして之を以て一般の所得率
の減少を見ば大に誤れり。

國民所得の増加

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 他 | 豆 | 豆 | 豆 | 豆 | 豆 | 夢 | 夢 |
| 八 | 四 | 二 | 九 | 九 | 二 | 四 | 四 |
| 八 | 四 | 二 | 一 | 三 | 二 | 九 | 九 |
| 四 | 六 | 六 | 三 | ○ | 九 | 八 | 八 |
| 三 | 二 | 七 | 三 | 八 | ○ | 六 | 六 |
| 二 | 五 | 六 | 八 | 五 | 八 | 五 | 二 |
| 四 | 六 | 九 | 三 | 七 | ○ | 四 | ○ |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三 | 二 | 一 | 〇 | 三 | 三 | 七 | 二 |
| 三 | 一 | 八 | 一 | 七 | 二 | 八 | 二 |
| 三 | 〇 | 八 | 二 | 七 | 二 | 九 | 二 |
| 二 | 三 | 六 | 三 | 九 | 二 | 五 | 五 |
| 四 | 八 | 二 | 三 | 九 | 七 | 七 | 五 |
| 八 | 六 | 三 | 三 | 四 | 七 | 七 | 五 |
| 七 | 二 | 二 | 三 | 三 | 七 | 七 | 五 |

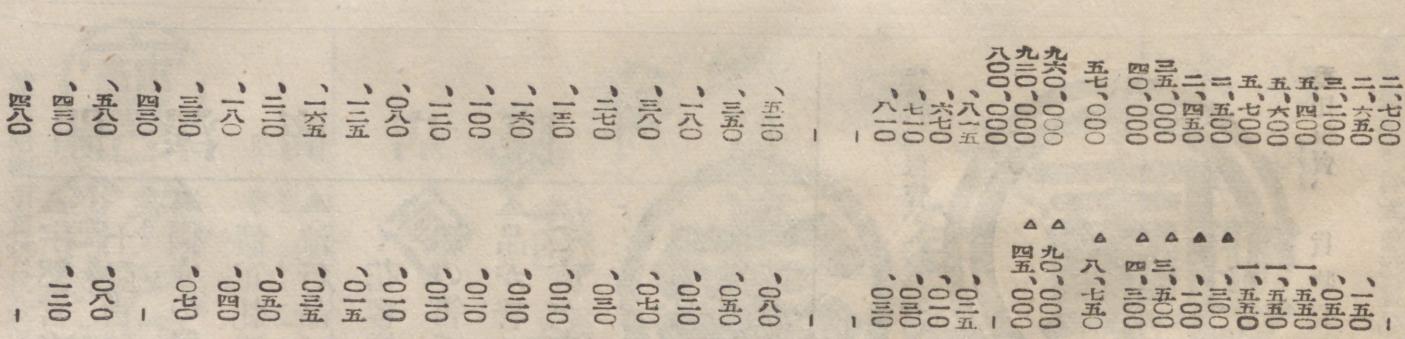
八四八四三三四

二、二九九〇
三、二一九八〇六
四、七三〇八〇六
五、二六六三〇八〇六
六、二七三三〇八〇六
七、二五六八五八五二九一
八、二六九三七〇〇四〇三

農民に對する低利資金の必要

輓近本邦に於ける販賣肥料の需要は逐年増加の趨勢を示し明治四拾三年に於ては其輸入販賣額二千九百六拾万四千餘圓の多きに達し之を其前年に比すれば百七十四万五千餘圓の増加にして更に其六年前(明治三十七年)に比すれば約六倍の増加を示せり又内地の製造販賣額は三千四百六拾七万六千餘圓にして之を其前年に比すれば五百五万九千餘圓の増加にして之を其六年前(明治三十七年)に比すれば約十八割の増加なり尚ほ各府縣廳の状勢を通觀するに各種肥料の品質は特に真製造免許に際し不正肥料の現出大に減少したるも尚ほ前年中に於て他物混和或は虛偽の保證票添附等の如き不正行爲に因り處罰せられたる者二十數人を出したるは遺憾とする處なり。

今日我邦農民の全負債額は九億三千万圓に上り就中東北地方の如きは一戸平均百五十圓乃至二百圓に達し而も其金利は概ね一割二分乃至一割五分にして甚しきは二割近くの高利を示し農民經濟の現状を以つてしては斯の如き高利巨額の負債を償還するは寧ろ至難の業と謂はざるへからず前桂内閣の四分利標準政策は世間に種々の議論ありたりと雖も（これが名も一意致ニテ目も是を蒙ミテ）之の低利を以つて從來の一割以上の高利に借り換へられたるに依て見れば桂公の此政策は農民の保護上頗る有効なりしや言を俟たず而して本年上半期に於ける低利資金は勸農銀行の貸出しを合計して蓋し約五六千万圓是に政府の低利資金二千万圓中一千万圓を加ふるとせば約六七千万圓に達すべし乎然りと雖も前記巨額の負債額に對して之を年額とするも僅々一億數千万圓の低利資金を以てしては農業の改良發達は多く望を屬すべからず況んや前年來多少低利に借り換へられたるものありと雖も其大部分は尙一割内外の高利なるに於いてを何等の効果を伴はざる空理空論に終るべし。



軽便洋食 壱品十三錢均 三笠軒 矢噶のルーホヤービ 下縣 生ビール牛乳 和洋酒類

| 品名 | | 立物名稱 | | 字都宮物 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 米一石 | 米一石 | 米一石 | 米一石 | 米一石 | 米一石 |
| 全 | 全 | 全 | 全 | 全 | 全 |
| 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 | 北海道產 | 北海道產 |
| 市內產 | 市內產 | 市內產 | 市內產 | 三陸產 | 三陸產 |
| 全 | 全 | 全 | 全 | 三等外全 | 二等外全 |
| (米) | (麥) | (麥) | (麥) | 三等全 | 二等全 |
| 全 | 全 | 全 | 全 | 三等全 | 二等全 |
| (米) | (麥) | (麥) | (麥) | 三等全 | 二等全 |
| 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 |
| 山形岩手產 | 島產 | 州產 | 州產 | 州產 | 州產 |
| 全 | 役 | 全 | 全 | 全 | 全 |
| 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 | 野州產 |
| 内產 | 内產 | 内產 | 内產 | 内產 | 内產 |
| 新(ニコ) | 新(ニコ) | 新(ニコ) | 新(ニコ) | 新(ニコ) | 新(ニコ) |
| 野州部 | 野州部 | 野州部 | 野州部 | 野州部 | 野州部 |
| 卷 | 產 | 產 | 產 | 產 | 產 |
| 夏 | 夏 | 夏 | 夏 | 夏 | 夏 |
| 百斤 | 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 |
| 百斤 | 一百斤 | 一百斤 | 一百斤 | 一百斤 | 一百斤 |
| 牛干 | 牛乳 | 牛卵 | 牛節 | 牛鹽 | 牛味噌 |
| 梅澤 | 梅牛 | 梅鷄 | 梅豚肉 | 梅牛肉 | 梅茶 |
| 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 | 十貫目 |
| 野州部 | 野州部 | 野州部 | 野州部 | 野州部 | 野州部 |

管業種目

理化學器機
製品賣樂園發售
寫眞器械附屬一式
ヨンデンスマルク特約店

木村作次郎
木村町電話
支店百十一番
日光中鉢石町電話

大谷石材販賣
宇都宮市川向町停車
大谷石商會

山石炭各驛手販賣
間石炭各驛一手販賣
煙炭各種大販賣

針都宮可石國
村上屋濱吉

本
問屋
坂本
(電話四〇八番)
仲
光力電燈より光強し
アセチリン瓦斯
右油ニ優
ル事百倍

和紙卸商
洋紙卸商

家都官市今季固
上油屋紙店
相鳴直五郎

一報次第店員出張萬事御協議可申候
宇都宮市本郷町廿八番地

▲藍 ▲肥 料 ▲麻 ▲苧
▲眞 繩

諸建築木料供給販賣
諸木材廉價販賣
戶障子廉價販賣
諸建築工事請負業

平安岐の路
本店 東京市日暮里
都賀屋

商號久喜屋

業務擴張人爲之從
陸續御用命奉願候

來ノ建具類賣場狹隘ナ感シ肴町通ニ移轉仕候條